

徳之島事務所（令和6年12月分）管内情勢

農林水産業関連

1 徳之島地区青年農業者会議で活発な質問が飛び交う

11月29日に徳之島町で徳之島地区青年農業者会議を開催し、農業者及び関係機関・団体の31人が参加した。

会議では、4人の青年農業者が意見発表、プロジェクト発表、研修報告を行った。意見発表の部では、畜産農家が就農するまでに経験した内容や今後の営農目標、プロジェクト発表の部では、パッションフルーツの新たな仕立て方法に挑戦した内容について発表した。プロジェクト発表では活発な質疑応答がなされ、充実した内容の会議となった。



2 パッションフルーツ栽培講習会で青年プロジェクト発表を実施

12月6日に天城町でパッションフルーツ栽培講習会を開催し、農業者及び関係機関等20人が参加した。

今回、青年農業者がプロジェクトとして取り組んだ新たな整枝方法に関する取組の経緯や活動成果、今後の課題などについて発表した。

参加者からは新たな整枝方法や経営評価などについて様々な質問が出た。

その他に栽培環境や土壌環境の健全化、病虫害防除、施肥などについて講習を行った。

今後も農業普及課では、単収向上に向けた適期管理等について支援していく。



3 「しまあかり」の展示ほ16箇所の植え付けが終了

11月29日から12月11日にかけて、3町に設けた計16か所の展示ほで、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性新品種「しまあかり」の植え付けが行われた。

管内への本格的な普及に先立ち、本年度は栽培者及び関係機関で現地適応性を評価することとしており、出芽状況の調査及び収穫物の調査や、JAばれいしょ部会員対象の現地検討会の開催を計画している。

引き続き、「しまあかり」導入の理解促進に努めるとともに、正しい評価がなされるように支援していく。



4 様々な原因でばれいしょに生じた「傷」が病害発生を助長か

12月19～20日に、3町計約15ほ場を対象に、県、国、大学の研究者4人及びJA職員の計6人で、ばれいしょ病害の発生状況調査を実施した。

植え付け時期の高温も影響してか、半数以上のほ場で萎れの症状が認められた。従来から原因と考えられている青枯病や軟腐病の発生以外に、その他細菌の感染が疑われる症状も複数確認された。

虫害や風害等で発生した傷口からの感染が考えられたが、詳細は不明であるため、引き続き、専門機関の助言を得ながら病害対策指導を継続していく。



5 青刈りハカマの利用で粗飼料不足の解消を

11月25日と28日に、伊仙町で、さとうきび収穫残さの青刈りハカマの回収と牛への給与試験を実施した。

去年はハカマをサイレージ調製して給与したが、調製期間が約1カ月半必要で、需要期に供給できなかったことから、今回は青刈りでの利用を行った。

ハカマの回収は事業導入の集草用シューターで効率的に回収した。また、試験給与を行った3戸の農家では、牛の嗜好性は良好で、活用したいと好評であった。今後は、この3戸をモデルとしてハカマを回収販売する計画である。

